

# 社会学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
社会学概論	現代社会の秩序と動態	2	長谷川 公一	3	木	1	1
社会学概論	地域ケア・システムの社会学	2	永井 彰	4	木	1	2
社会学基礎演習	平成の社会変動学	2	長谷川 公一	3	火	5	3
社会学基礎演習	コミュニケーション行為の理論	2	永井 彰	4	水	5	4
社会学基礎演習	相互行為論の基礎視角	2	木村 雅史	4	月	4	5
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	6	火	4	6
社会学各論	質的研究概論	2	徳川 直人	5	水	3	7
社会学各論	環境問題と社会運動の社会学	2	長谷川 公一	5	木	2	8
社会学各論	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	6	木	2	9
社会学各論	福祉社会の成り立ち	2	菅原 真枝	5	火	3	10
社会学各論	ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会	2	清水 晋作	集中(5)			11
社会学各論	“被害者になる”こと の社会学	2	本郷 正武	集中(6)			12
社会学演習	船橋晴俊を読む	2	長谷川 公一	5	火	4	13
社会学演習	社会科学のなかの社会学	2	永井 彰	6	水	2	14
社会学実習	社会調査実習(1)	2	小松 丈晃	5	金	3、4	15
社会学実習	社会調査実習(2)	2	小松 丈晃	6	金	3、4	16

**科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)**

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB34103, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

現代社会の秩序と動態

**2. Course Title (授業題目)：**

The Dynamics and Social Order of the Modern Society

**3. 授業の目的と概要：**

日常的な世界から出発して、社会学の基礎概念・基礎視角をもとに理論的に考察し、社会学的なまなざしの特質を理解する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 行為論・組織論・権力論などとおして、社会学の基礎概念や基礎視角について理解を深める。
- (2) 相互行為や社会秩序、組織とネットワーク、メディアとコミュニケーション、政治参加などについて考察する。
- (3) 現代社会について、洞察を深める。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

イントロダクション：平成の時代とは

第2回 現代社会を捉える視角

第3回～第5回 相互行為

第6回～第8回 社会構造と秩序問題

第9回～第11回 グローバル化の諸様態

第12～第14回 リスク社会と公共圏

第15回まとめ

**6. 成績評価方法：**

出席とふだんの受講姿勢を重視する。期末に試験を行う。

**7. 教科書および参考書：**

長谷川公一ほか『社会学』有斐閣、2007年。好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房、2017年。

**8. 授業時間外学習：**

予習・復習に努める。

**9. その他：なし**

オフィスアワー：月 5

**科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)**

**曜日・講時：**後期 木曜日 1 講時

**semester：4, 単位数：2**

**担当教員：**永井 彰 (教授)

**講義コード：**LB44103, **科目ナンバリング：**LHM-SOC201J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

地域ケア・システムの社会学

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology of Community Care System

**3. 授業の目的と概要：**

主として農村地域社会をフィールドとしながら、医療や福祉をめぐる地域社会の動態を地域ケア・システムの社会学として概説する。

**4. 学習の到達目標：**

地域ケア・システムの社会学について理解できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 地域ケア・システムの社会学
3. 農村地域社会の社会学
4. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成 (1)
5. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成 (2)
6. 農村医療から地域ケアへ (1)
7. 農村医療から地域ケアへ (2)
8. 岩手県沢内村の 50 年を振り返る (1)
9. 岩手県沢内村の 50 年を振り返る (2)
10. 公私協働と住民参加の問題 (1)
11. 公私協働と住民参加の問題 (2)
12. 離島の地域ケア
13. 災害と地域ケア・システムの形成
14. 地域ケア・システムの社会学再考
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

講義時に毎回提示する課題提出による。

**7. 教科書および参考書：**

教室にて指示する。

**8. 授業時間外学習：**

講義時に課題を提示する。課題をこなすことで、授業の復習を行う。

**9. その他：**なし

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB32502, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

平成の社会変動学

**2. Course Title (授業題目)：**

Social Change of "the Heisei Era"

**3. 授業の目的と概要：**

平成の30年間に社会はどのように変化したのか。政治・経済・家族・友人関係・メディア・インターネット・スマートフォン・グローバル化・食など、データにもとづいて多面的に社会変動を考察する。

**4. 学習の到達目標：**

社会変動を把握する際のデータ収集方法と分析視角について理解を深める。参加者が各自の関心にしたがって、社会変動に関するデータを収集し、今後の研究課題を発見する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

第1回 イン트로ダクション

第2回 政治の変動

第3回以降は、出席者が各自関心分野にしたがって変動の方向についてデータを用いて紹介・分析する

第15回 まとめ

**6. 成績評価方法：**

出席および担当回の報告内容、最終レポートを重視する。

**7. 教科書および参考書：**

小熊英二編『平成史 増補新版』河出書房（2014年）。吉見俊哉『ポスト戦後社会』岩波新書（2009年）。

**8. 授業時間外学習：**

新聞やテレビのドキュメンタリーを見て、平成時代の社会変動について問題意識を涵養する。

**9. その他：なし**

演習参加者全員が、意欲をもって授業にのぞんでください。前回の授業を十分に咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって出席してください。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB43503, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

コミュニケーション行為の理論

2. Course Title (授業題目)：

The theory of Communicative Action

3. 授業の目的と概要：

ドイツの社会学者・哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』をドイツ語原文で講読する。  
専門文献をドイツ語で精読する方法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- 1) ドイツ語で専門文献を読解できる能力を獲得する。
- 2) 専門文献を精読するとはどのようなことなのかを理解できるようになる。
- 3) コミュニケーション行為理論の基本的な考え方を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODダクシヨN
2. テクストの講読
3. テクストの講読
4. テクストの講読
5. テクストの講読
6. テクストの講読
7. テクストの講読
8. テクストの講読
9. テクストの講読
10. テクストの講読
11. テクストの講読
12. テクストの講読
13. テクストの講読
14. テクストの講読
15. テクストの講読

6. 成績評価方法：

平常点（毎回の訳文作成）50%、レポート50%。

7. 教科書および参考書：

Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns, Band 1: Handlungsrationalität und gesellschaftliche Rationalisierung; Band 2: Zur Kritik der funktionalistischen Vernunft, Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1981.

8. 授業時間外学習：

授業前に、各自、訳文を作成する。

授業後、授業での検討をふまえて、各自、訳文を再点検する。

9. その他：なし

ドイツ語学習のために、社会学専修以外の学生の履修を歓迎する。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar) 曜

日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 雅史 (非常勤講師)

講義コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

相互行為論の基礎視角

**2. Course Title (授業題目)：**

basic viewpoint of interaction studies

**3. 授業の目的と概要：**

コミュニケーションは、社会を再生産する場であると同時に、社会に異議申し立てを行い、社会を変化させる場でもある。コミュニケーションがもつ多様な意味や役割を理解するためには、社会とコミュニケーションの関係を多角的な視点から分析・考察することが必要になる。このような問題意識のもと、この授業では、社会学における「相互行為論」の諸理論について学びながら、相互行為論的な視点から自分の研究課題を設定し、分析・考察できるようになることを目的とする。授業は、各回のテーマに沿った課題論文を皆で購読し、議論するかたちで進める。授業後半では、授業で扱った諸理論に関する各自の研究発表（各理論の最新の研究動向紹介、各理論を使った具体的な事例分析等）、受講生全員での討論を行い、各理論の特徴や限界、応用可能性等について理解を深める。受講生は、研究発表や討論の成果もふまえつつ、自分の研究課題について分析・考察を進め、最終的にレポートにまとめる。

**4. 学習の到達目標：**

- ①相互行為論の基本的な考え方やその諸理論に関する知識を習得する。
- ②コミュニケーションや相互行為に関する自らの関心や問題意識を高め、自分の研究課題として問題化できるようになる。
- ③相互行為論的な視点から自分の研究課題について分析・考察を行い、説得的な議論を展開できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 役割取得と自我形成
3. 主我と客我
4. ドラマツルギー
5. 内集団と外集団
6. 相互行為儀礼
7. 親密性と共依存
8. 多元的現実
9. 多層的現実
10. シンボリック相互作用論
11. 構築主義
12. エスノメソドロジー
13. 研究発表と討論 (1)
14. 研究発表と討論 (2)
15. 研究発表と討論 (3)

**6. 成績評価方法：**

出席 [30%]、研究発表と討論（報告内容や発言の積極性など） [20%]、レポート [50%]

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。各回の授業で購読する課題論文はこちらで準備する。参考文献は随時紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回、次回の授業準備用のコミュニケーション・ペーパーを配布するので、事前に課題論文を読み、自分なりの論点や疑問点をコミュニケーション・ペーパーにまとめた上で授業に臨むこと。

**9. その他：なし**

授業に関する問い合わせは、tadafumi\_kjp@yahoo.co.jp まで。

**科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)**

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LB62403, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

リスクと無知の社会学

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology of Risk and Ignorance

**3. 授業の目的と概要：**

自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文社会科学の知が必要である。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

**4. 学習の到達目標：**

- ・社会学における各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。
- ・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. リスク論事始め—人文社会科学における研究動向概観—
2. リスク社会論再考—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスクと道徳 (3)
8. リスク社会と信頼 (1)
9. リスク社会と信頼 (2)
10. 公共財としての科学知とその課題—地域社会と科学—
11. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめと総合討論

**6. 成績評価方法：**

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%+学期末のレポート提出 60%で評価

**7. 教科書および参考書：**

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

**8. 授業時間外学習：**

授業において、毎回、学習課題を出す予定

**9. その他：なし**

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：徳川 直人（兼務教員）

講義コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

質的研究概論

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to Qualitative Inquiry in Sociology

**3. 授業の目的と概要：**

資料蒐集、日誌、ノートといった社会学的知の生産技術の基本を実践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義と演習を通じて種々の質的方法について理解を深める。

**4. 学習の到達目標：**

質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

質的分析法入門

方法としてのフィールドノート

感受概念

非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計

聞き書き

インタビュー

自然主義的観察

参与観察

グラウンデッドな接近法

エスノメソドロジー

エスノグラフィー

事例分析とモノグラフ

ヒューマン・ドキュメント

アクション・リサーチ

調査倫理

**6. 成績評価方法：**

レポート [50%]・出席 [50%]。予復習の見られない出席や、指定文献を読了しないレポートは、認めない。

**7. 教科書および参考書：**

『方法としてのフィールドノート』『質的研究用語事典』など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の読み物について目を通すこと。また授業内容についての復習（用語の意味確認）などを提出すること。学期末レポートに向けて日常的にフィールドワーク実践に少しずつ取り組むこと。

**9. その他：なし**

公式サイト <http://www.sp.is.tohoku.ac.jp/toku/> および ISTU にて資料等を閲覧する。また、所載のメールを随時利用してよい。

**科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)**

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB54203, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

環境問題と社会運動の社会学

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology on Environmental Problems and Social Movements

**3. 授業の目的と概要：**

世界的な経済成長と公害・環境問題を背景に、1970 年代にアメリカで誕生した環境社会学は、日本においても独自の展開を遂げました。世界と日本の環境社会学のそれぞれの特徴を考察します (2-4 回)。環境社会学を生み出す契機にもなった社会運動を反省的に捉える中から、社会運動研究も活性化しました (5-7 回)。2011 年の福島原発事故と 2015 年のパリ協定の採択を契機に、各国のエネルギー政策や気候変動政策、産業政策は大きく転換しつつあります (8-13 回)。それにもかかわらず原発事故の当事国日本はなぜ変わろうとしないのか、なぜ変わらないのか。国際社会は鋭く問いかけています (14-15 回)。このような問いかけに、私たちは、社会学の視点からどのように対峙することができるのでしょうか。受講者のみなさんと一緒に考えていきましょう。

**4. 学習の到達目標：**

1997 年に採択された京都議定書を基礎に、2015 年に気候変動に関するパリ協定が誕生しました。京都議定書やパリ協定のような新たな環境政策は、環境問題をめぐる、社会運動と政策当局、産業界との相互の緊張関係の中から生まれてきました。ポスト平成時代の幕開けが迫る 2018 年。やがて 2030 年、2050 年を迎えます。この講義では、1) 環境社会学と社会運動論の歴史を振り返り、それぞれの研究課題を把握したうえで、2) 具体的な環境問題として原子力発電、気候変動問題を取りあげ、環境政策と社会運動の接点から、理論的および実践的課題について理解を深めましょう。3) これらをとおして、福島原発事故の当事国である日本がなぜ変わらないのか、現代日本の社会と政治の課題についても考察します。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ポスト平成時代を生きる君たちへ (第 1 回)
2. 環境社会学の課題と展開 (2-4 回)
3. 社会運動論という視座 (5-7 回)
4. 脱原子力社会へ (8-10 回)
5. 脱炭素社会へ (11-13 回)
6. リスク社会における運動の政策化と政策の運動化 (14 回)
7. 日本は変わるのか (15 回)

**6. 成績評価方法：**

出席状況や質疑・討議への参加状況 (平常点、40%程度を予定) と、課題レポート (60%程度を予定) により評価します。

**7. 教科書および参考書：**

長谷川 公一 『環境運動と新しい公共圏：環境社会学のパースペクティブ』 (有斐閣) ISBN:4-641-07667-7 本講義の基本的な問題意識を述べたもの。受講者は、なるべく入手してください。長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学』 (有斐閣) ISBN:978-4-641-05370-0 社会学の代表的な教科書の一つ。

長谷川公一・品田知美編 『気候変動政策の社会学：日本は変わるのか』 (昭和堂) ISBN:978-4-8122-1553-1 終章「脱炭素社会への転換を」を寄稿。11-13 回に対応。

長谷川公一・山本薫子編 『原発震災と避難：原子力政策の転換は可能か』 (有斐閣) ISBN:978-4-641-17433-7 終章「福島原発震災から何を学ぶのか」を寄稿。8-10 回に対応。

ハンドアウトを配布予定。

**8. 授業時間外学習：**

担当教員の問題意識を把握するために、授業前にできるだけ、次の 2 点に目を通してきてください。

(1) 『脱原子力社会へ：電力をグリーン化する』 (岩波新書、2011 年 9 月刊)。読みやすい新書版。福島原発事故を契機に、世界的に、エネルギーをめぐる大転換が始まりつつある。

(2) 「卒業生に贈る言葉」 (卒業生へのメッセージ。2001 年度以降の毎年分を載せている)。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~hasegawa/farewell.html>

**9. その他：なし**

基本的に講義形式で授業を進めますが、講義の途中であつても受講者の積極的な質問やコメントを歓迎します。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB64201, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

ハーバーマスの社会理論

**2. Course Title (授業題目)：**

Social Theory of J. Habermas

**3. 授業の目的と概要：**

ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。

**4. 学習の到達目標：**

ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. ハーバーマス研究の視座と方法
3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
10. コミュニケーション行為概念の再規定
11. 生活世界論の再構成
12. 生活世界とシステム
13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
14. 再構成的社会学の可能性
15. 講義のまとめ

**6. 成績評価方法：**

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]

**7. 教科書および参考書：**

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018年。

**8. 授業時間外学習：**

授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。

**9. その他：なし**

**科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 3 講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**菅原 真枝 (非常勤講師)

**講義コード：**LB52303, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

福祉社会の成り立ち

**2. Course Title (授業題目)：**

the constitution of welfare society

**3. 授業の目的と概要：**

福祉社会学の基本的な考え方をとりあげる。社会福祉の現代的課題を学びながら、福祉社会の成り立ちについて理解する。

**4. 学習の到達目標：**

福祉社会学の基本的な考えかたを理解し、社会福祉の現代的課題について多様な立場から説明することができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

講義を中心に以下のとおり進める。

1. 福祉国家と福祉社会
2. 社会福祉事業
3. 自立と依存
4. 福祉ニーズの多様化
5. 貧困
6. 障害者の就労
7. 子育て支援
8. 地域生活を支える福祉サービス
9. 家事労働
10. 介護の社会化
11. 介護労働
12. 老人ホーム
13. 外国人ケアワーカー
14. 老人ホームと地域社会
15. 福祉社会の成り立ち

**6. 成績評価方法：**

授業への取り組み 50%、レポート 50%

**7. 教科書および参考書：**

開講時に指示する。[Will be introduced in the class.]

**8. 授業時間外学習：**

新聞や書籍を通じて、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

**9. その他：**なし

**科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)**

**曜日・講時：**前期集中 その他 連講

**semester：**集中(5), **単位数：**2

**担当教員：**清水 晋作 (非常勤講師)

**講義コード：**LB98825, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会

**2. Course Title (授業題目)：**

Daniel Bell's Social Theory and Modern American Society

**3. 授業の目的と概要：**

ダニエル・ベルの社会理論の考察を通じて、現代社会の諸問題について分析する。理論を考察する中で、アメリカ社会の具体的事象を取り上げるが、それらはアメリカ社会だけの問題にとどまらず、日本を含めた現代社会に共通の課題である。取り上げるテーマは、資本主義、民主主義、官僚制、エスニシティなどである。またベルの社会理論を中心に扱うが、その際にマルクス、ウェーバー、パーソンズ、マートン、ベラーなどの他の社会学者との関連も検討する。

**4. 学習の到達目標：**

- ①ダニエル・ベルを中心に社会学の理論について説明することができる。
- ②授業で取り上げる現代社会の主要な問題について説明することができる。
- ③社会理論を用いて、現代社会の諸問題について批判的に分析することができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ダニエル・ベルの社会学史における位置づけ
2. 公共知識人
3. 冷戦と資本主義
4. 「資本主義の文化的矛盾」
5. 消費社会——リッツァー「再魔術化」論
6. 官僚制——アメリカの福祉政策
7. エスニシティ①——ギャング
8. エスニシティ②——マートン「アノミー」論
9. 禁酒法
10. マッカーシズム①——アメリカン・デモクラシー
11. マッカーシズム②——反知性主義
12. マッカーシズム③——マッカーシズムからトランプ現象へ
13. 「イデオロギーの終焉」
14. 「脱工業社会」論と大学紛争
15. ダニエル・ベルの社会理論と現代社会

**6. 成績評価方法：**

レポート (70%)、出席およびコメントカードの提出状況 (30%)

**7. 教科書および参考書：**

参考書

清水晋作『公共知識人 ダニエル・ベル——新保守主義とアメリカ社会学』(勁草書房、2011年)

その他の参考文献は授業の中で指示する。

**8. 授業時間外学習：**

授業の中で紹介した参考文献を読み、現代社会の諸課題について自分なりの視点から考察を深める。

**9. その他：**なし

**科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)**

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中(6), 単位数：2

担当教員：本郷 正武 (非常勤講師)

講義コード：LB98826, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

“被害者になる”こと社会学

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology of “Becoming Victims”

**3. 授業の目的と概要：**

いわゆる「薬害」問題や公害問題などの被害者「になる」各種プロセスを取り上げ、「被害者」をめぐる諸問題をとらえる分析方法を多角的に検討する。

**4. 学習の到達目標：**

社会運動論や医療社会学がこれまで提起してきた諸概念や理論枠組みを使って、「被害者（あるいは当事者）になる」プロセスを多角的に考察し、理解できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

講義は以下のように進める。進度によって多少内容が前後する場合がある。

**【1日目】**

1. イントロダクション
2. HIV/AIDSをめぐる集合行為
3. 「薬害 HIV」問題の諸相
4. 「医療化」概念にみる運動のプロセス +本日の「まとめ」

**【2日目】**

1. 「薬害」問題の多様性
2. 「薬害」概念による問題理解の様式
3. 食品公害をめぐる社会運動
4. HIV 性行為感染での「被害者」とは +本日の「まとめ」

**【3日目】**

1. 環状島モデルにみる「当事者」の置かれた立場
2. カミングアウトのポリティクス
3. ライフスタイル運動にみる「弱い主体」
4. 障害者運動にみる「強い主体」 +本日の「まとめ」

**【4日目】**

1. ハンセン病回復者にみる「Becoming Victims」のプロセス
2. 水俣病患者にみる「Becoming Victims」のプロセス
3. 「Becoming Victims」のプロセスの理論的検討 +本日の「まとめ」

**6. 成績評価方法：**

各日の最後の「まとめ」（合計4回）による（100%）。やむを得ず当該時間を欠席する場合、代替のミニレポートを課すことも考慮する。

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。参考書は以下の通り。以下に挙げた以外にも適宜参考文献を講義中に紹介する。

本郷正武, 2007, 『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』ミネルヴァ書房。

中川輝彦・黒田浩一郎編, 2010, 『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房。

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編, 2004, 『社会運動の社会学』有斐閣。

盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編, 2017, 『社会学入門』ミネルヴァ書房。

曾良中清司・長谷川公一・町村敬志・樋口直人編著, 2004, 『社会運動という公共空間：理論と方法のフロンティア』成文堂。

**8. 授業時間外学習：**

「薬害」や「公害」、社会運動に関するニュースや Web 上の言説について日頃から注意しておくこと。講義中に紹介する参考文献を手にとってみること。

**9. その他：なし**

2019年1月22日（火）～25日（金）の開講を予定。

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB52408, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

舩橋晴俊を読む

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading Harutoshi Funabashi' Works

**3. 授業の目的と概要：**

舩橋晴俊（1948-2014 年）の主要な著作・論文の読解をとおして、社会学を学ぶ〈よろこび〉を再発見しましょう。『社会学をいかに学ぶか』を手始めとして『社会制御過程の社会学』などの著作を読解します。

**4. 学習の到達目標：**

舩橋晴俊は、見田宗介などの理論的影響を受けながら、その生涯を賭して社会学の理論と実践の往還・架橋に真摯に取り組んだ独創的な社会学者です。新幹線公害問題や核燃料サイクル施設問題、福島原発事故の究明などに取り組みましたが、社会問題研究の中から理論的洞察を深めようとしたところに、舩橋の真骨頂がありました。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

舩橋晴俊の生涯とその時代/『社会学をいかに学ぶか』をいかに学ぶか I・II/主著『社会制御過程の社会学』の背景と基本構想/主著『社会制御過程の社会学』を精読する／まとめ

**6. 成績評価方法：**

出席、質疑・討論への参加、最終レポートを重視する。

**7. 教科書および参考書：**

舩橋晴俊『社会学をいかに学ぶか』弘文堂（2012）、同『社会制御過程の社会学』東信堂（2018、近刊）。

**8. 授業時間外学習：**

演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞんでください。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって出席してください。

**9. その他：なし**

**科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)**

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

社会科学のなかの社会学

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology in Social Sciences

**3. 授業の目的と概要：**

通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。

この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学的な思考法について考察を深めることにしたい。

**4. 学習の到達目標：**

社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。

社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 授業のガイダンス
2. 『社会認識の歩み』問題と方法／生活現実と社会科学／「方法論」とメソドロジー／社会科学の言葉
3. 『社会認識の歩み』運命へのチャレンジ
4. 『社会認識の歩み』国家の制作 (1)
5. 『社会認識の歩み』国家の制作 (2)
6. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (1)
7. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (2)
8. 『社会認識の歩み』学問総合化の二つの道
9. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (1)
10. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (2)
11. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (3)
12. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (4)
13. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (1)
14. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (2)
15. 全体のまとめ

**6. 成績評価方法：**

(レポート (50%) 授業時の受講票提出 (50%))

**7. 教科書および参考書：**

内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店、1971年。

大塚久雄『社会科学の方法——ヴェーバーとマルクス』岩波書店、1966年。

**8. 授業時間外学習：**

授業時間前に、各自テキストを読む。

講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。

**9. その他：なし**

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：前期 金曜日 3講時. 前期 金曜日 4講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LB55308, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

社会調査実習 (1)

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology (Research) I

**3. 授業の目的と概要：**

社会調査実習 (1) の目的は、次の2点である。(1) 社会調査の理論と方法を理解する。(2) 社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。この授業では、社会調査の基礎と概要 (意義・種類・方法・歴史・課題・調査倫理など) を学ぶとともに、社会調査実習 (2) で予定されている現地での調査実施に向けた準備作業までを行う。

**4. 学習の到達目標：**

- ・社会調査のための基本的な方法を習得する。
- ・社会調査を行うための仮説構築を行えるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 社会科学と社会調査
2. 社会理論と社会調査
3. 社会調査における価値・倫理
4. 社会調査の方法 (1)
5. 社会調査の方法 (2)
6. 社会調査の方法 (3)
7. 社会調査の方法 (4)
8. 社会調査の方法 (5)
9. 問題の設定 (1)
10. 問題の設定 (2)
11. 既存調査の検討 (1)
12. 既存調査の検討 (2)
13. 仮説の構成 (1)
14. 仮説の構成 (2)
15. 調査対象の選定

**6. 成績評価方法：**

授業への出席と発言 50%+ (ミニレポートも含めた) 課題レポート 50%

**7. 教科書および参考書：**

参考文献は、授業で適宜、指示します。また、適宜、必要な資料を配付します。

**8. 授業時間外学習：**

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

**9. その他：なし**

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時, 後期 金曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LB65306, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

社会調査実習 (2)

**2. Course Title (授業題目)：**

Sociology (Research) II

**3. 授業の目的と概要：**

社会調査実習 (2) の目的は次の 2 点である。(1) インタビュー調査の技法を習得する。(2) 設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う。この授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、社会調査実習 (1) で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。

**4. 学習の到達目標：**

- ・インタビュー調査の技法を習得する。
- ・設定したテーマについて社会調査を実施しその分析を行えるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 調査の企画
2. 調査項目の設定 (1)
3. 調査項目の設定 (2)
4. インタビューの技法 (1)
5. インタビューの技法 (2)
6. インタビューの実施 (1)
7. インタビューの実施 (2)
8. 調査結果の処理 (1)
9. 調査結果の処理 (2)
10. 調査結果の分析 (1)
11. 調査結果の分析 (2)
12. 調査結果の分析 (3)
13. 調査報告書の企画
14. 調査報告書の作成
15. 調査報告 (口頭発表)

**6. 成績評価方法：**

授業への出席と発言 50%+ (ミニレポートも含めた) 課題レポート 50%

**7. 教科書および参考書：**

参考書は、授業の中で適宜、指示します。また、必要に応じて、資料を配付します。

**8. 授業時間外学習：**

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

**9. その他：なし**